

平成25年度 学校法人純美禮学園

事業報告及び決算概要報告について

◆ 沿 革

I 法人の概要

II 学園の法人会議及び監査について

III 各部門の教育推進の概要

IV 決算概要説明

<付 表>

- ・ 資金収支計算書 (第1表)
- ・ 資金収支内訳表 (第2表)
- ・ 消費収支計算書 (第3表)
- ・ 消費収支内訳表 (第4表)
- ・ 貸借対照表 (第5表)
- ・ 財産目録 (第6表)

V 監事監査報告書

【参 考】

- ・ 「学生・生徒・園児数」(平成26年5月1日現在)

法人本部

◆ 沿革

年	月	事	項
大正 7 年	4 月	松村裁縫速進教授所開設	大津市北国町（現 三井寺町）
8 年	4 月	大津裁縫速進教授所と改称	
15 年	4 月	大津市蔵橋町（現 浜大津二丁目）へ教授所移転	
昭和 3 年	4 月	大津裁縫女学校開校	校長に中野富美就任
6 年	4 月	大津高等裁縫女学校に改組	同校専攻科卒業者に対し 小学校裁縫専科正教員無試験検定資格が、県知事から付与される
12 年	4 月	大津市梅林町に新築移転	
19 年	4 月	財団法人純美禮学園に改組	理事長に中野富美就任 滋賀高等女子実業学校と校名変更
23 年	4 月	学制改革に伴い新制高等学校に改組	大津家庭高等学校に校名変更
26 年	4 月	財団法人純美禮学園を学校法人純美禮学園に組織変更	理事長に中野富美就任
36 年	4 月	滋賀女子高等学校に校名変更	
37 年	12 月	滋賀女子高等学校	大津市朝日が丘に校舎新築
38 年	11 月	第二期工事	講堂兼体育館竣工
41 年	3 月	理事長に松村信蔵就任	
43 年	8 月	第三期工事竣工	梅林校舎を廃し朝日が丘に校舎統合
45 年	4 月	滋賀女子短期大学 開学	服飾学科、幼児教育学科の二学科設置 滋賀女子高等学校に普通科新設
47 年	10 月	滋賀女子高等学校	中野富美顕彰記念館竣工
49 年	5 月	滋賀女子短期大学	体育館竣工
51 年	4 月	理事長に原山淑夫就任	
55 年	4 月	滋賀女子短期大学附属幼稚園	開園
56 年	8 月	理事長に中野幹夫就任	
57 年	11 月	滋賀女子高等学校	普通科棟竣工（現 3 号館）
59 年	3 月	滋賀女子短期大学	音楽棟竣工（現 3 号館）
62 年	4 月	滋賀女子短期大学	秘書科新設
63 年	5 月	学園創立 70 周年記念式典	挙行
63 年	10 月	滋賀女子高等学校	第二体育館竣工
平成 3 年	3 月	滋賀女子高等学校	普通科棟増築竣工（新館）
3 年	4 月	滋賀女子短期大学	服飾学科を生活学科に科名変更
6 年	3 月	滋賀女子短期大学	学舎増築（3 号館）
9 年	4 月	滋賀女子高等学校	家政科を生活創造科に科名変更

11年	3月	滋賀女子高等学校	体育館建替竣工（第一体育館）
12年	4月	滋賀女子短期大学	秘書科をビジネスコミュニケーション学科に科名変更
15年	4月	滋賀女子短期大学	幼児教育学科を幼児教育保育学科に科名変更
16年	4月		理事長に松村文夫就任
17年	4月	滋賀女子短期大学	生活学科に製菓衛生師養成校の指定を受ける
20年	4月		共学化に伴い学校名変更 滋賀女子短期大学を滋賀短期大学へ 滋賀女子高等学校を滋賀短期大学附属高等学校へ 滋賀女子短期大学附属幼稚園を滋賀短期大学附属幼稚園へ
20年	5月		純美禮学園90周年記念式典挙行
21年	3月		(財)短期大学基準協会における第三者評価の結果 適格と認定される
21年	3月	滋賀短期大学	生活学科に栄養士養成施設の指定を受ける
22年	1月	滋賀短期大学	生活学科に栄養教諭免許（2種）授与の課程認定を受ける
22年	4月	滋賀短期大学附属高等学校	生活創造科を人間総合科に科名変更
22年	11月	滋賀短期大学附属高等学校	2号館耐震工事完了
23年	10月	滋賀短期大学	ビジネスコミュニケーション学科に日本医師会認定医療秘書養成校の認定を受ける

I 法人の概要

- ・ 設置する学校の概要（平成25年5月1日現在）

学 校 名	学 科	定 員		現 員	
		入学定員	総定員	入学数	総数
滋賀短期大学	生 活 学 科	80 人	160 人	80 人	149 人
	幼児教育保育学科	170	340	184	335
	ビジネスコミュニケーション学科	100	200	94	185
	計	350	700	358	669
滋賀短大附属 高 等 学 校	普 通 科	200	600	181	554
	(生 活 創 造 科) 人 間 総 合 科	80	240	45	126
	計	280	840	226	680
滋賀短期大学 附 属 幼 稚 園	3 歳 ・ 4 歳 ・ 5 歳 児	60	170	69	196

- ・ 役員・教職員の概要（平成25年7月1日現在）

【役員】（理事9名 監事2名）

理事長	松村 文夫（常勤）	理 事	高井 八良（非勤）
理 事	佐藤 尚武（常勤）	理 事	松村 哲夫（非勤）
理 事	村田千栄子（常勤）	理 事	山本 正史（非勤）
理 事	小野 清司（常勤）	理 事	山田 義和（非勤）
理 事	井上 清久（常勤）	監 事	山根 重雄（非勤）
		監 事	馬場 章（非勤）

【評議員】評議員 井上 清久 以下 19名

【教職員の概要（非常勤外教）】（平成25年5月1日現在）

教 員 96名（81名） 職 員 36名（17名）

<内訳>

短期大学	教 員	33名（76名）	職 員	24名（12名）
高等学校	教 員	49名（5名）	職 員	6名（4名）
幼稚園	教 員	14名	職 員	1名
法人本部			職 員	5名（1名）

Ⅱ 法人会議及び監査の実施状況

◇ 法人の会議等

<理事会・評議員会>

年 度	月 日	会議区分	議 題 等
平成25年	5月27日	理 事 会	1. 平成24年度事業報告について 2. 平成24年度決算について 3. 平成24年度監査報告について 4. 評議員の推薦について 5. 評議員の選任について
	5月27日	評議員会	1. 平成24年度事業報告について 2. 平成24年度決算について 3. 平成24年度監査報告について 4. 理事の選任について 5. 評議員の選任について
	12月20日	評議員会	1. 平成25年度予算の補正について 2. 理事の任期の訂正について
平成26年	1月14日	理 事 会	1. 平成25年度予算の補正について 2. 学校法人純美禮学園職員給与規程の一部改正について 3. 滋賀短期大学学則の一部改正について 4. 評議員の推薦について
	3月15日	理 事 会	1. 評議員の選任について
	3月19日	評議員会	1. 平成26年度事業計画について 2. 平成26年度予算について 3. 理事の選任について 4. 評議員の選任について
	3月19日	理 事 会	1. 平成26年度事業計画について 2. 平成26年度予算について 3. 評議員の選任について

<常任理事会>

年 度	月 日	議 題 等
平成25年	4月30日	1. 当面の諸課題について ・経営判断指標について
	6月28日	1. 平成24年度決算における部門別財務分析について 2. 滋賀短期大学における 「第3次中期目標・計画」(平成24年度～26年度)の策定
	9月26日	1. 学園中期計画の策定について 2. 滋賀短期大学の学則変更について
	10月22日	1. 人事院勧告に基づく純美禮学園の給与改定について
	11月29日	1. 平成25年度予算の補正概要について 2. 学校法人純美禮学園職員給与規程の一部改正について 3. 学校法人純美禮学園の嘱託職員及び嘱託講師の雇用等に関する規程の一部改正について

◇法人の監査等

年 度	月 日	内 容 等
平成25年	4月3日	期首監査(公認会計士)
	5月16日 17日	平成24年度会計決算監査
	5月17日	学園監事による公認会計士からの意見聴取
	5月22日	学園監事監査
	7月18日	中間監査(公認会計士)
	8月30日	滋賀県総務課による現地調査
	9月25日	中間監査(公認会計士)
	11月20日	中間監査(公認会計士)
平成26年	2月21日	中間監査(公認会計士)

Ⅲ 各部門の教育推進の概況

< 短期大学 >

1. 第3次中期目標・計画による教育研究の推進

第3次中期目標・計画(平成24年～26年度)の策定に基づいて教育研究を推進させ、年度末から年度当初に平成25年度の点検・評価によって進捗状況をまとめ、それを基に「平成25年度点検・評価に基づく再策定」を作成し、次年度に向けての中期目標・計画を整備している。

(1) 管理運営体制の整備について

- ・ 教学運営体制として、各種委員会規程を整備した。
- ・ 危機管理体制として、危機管理の現状の点検のもとに危機管理規定の一部を改正し、「危機管理ガイドライン」を作成した。併せて、危機管理区分表の作成のもとに、想定できる危機事象におけるフローチャートを作成し、危機対応への準備とした。
- ・ 自己点検・評価体制として、第三者評価を見据えて円滑な点検評価活動ができるように、自己点検・評価に関する規程を一部改正した。自己点検・評価運営委員会を「自己点検・評価統括委員会」とし、委員構成を変更した。また、教育研究基本事項検討委員会を「自己点検・評価委員会」とし、この委員会のもとに4部会を置いた。
- ・ 自己点検・評価報告書としては、8月に平成23年度自己点検・評価報告書を、同じく東北文教短期大学との相互評価報告書を、3月に平成24年度自己点検・評価報告書を刊行した。
- ・ 職員の研修体制として、「SD委員会規程」を定め、研修会の設定や学外研修の派遣等、職員の研修を組織的に推進する体制を整えた。

(2) 教育体制の充実に向けて

- ・ 建学の精神を点検し、建学の精神の由来、建学の精神の解釈についてまとめ、学園名の由来、学章の由来についてもとりまとめた。また、広報用に用いられてきた教育理念、教育目標、教育方針等についても点検し、文言を修正した。併せて、行動指針、よい教育に込められたもの、行動計画等についても、文言を修正した。
- ・ 3つの方針(アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー)について点検し、生活学科および幼児教育保育学科では一部の文言を修正した。ビジネスコミュニケーション学科においては、平成26年度からコース名の一部変更および各コースでの種類の導入に向けての見直しを行った。
- ・ 資格や免許取得については、各学科とも前年度とほぼ同じであるが、資格試験等の合格率アップに関わっては、対策講座等の実施により指導を強化してきた。特筆すべき事項として、ビジネスコミュニケーション学科の日本医師会認定医療秘書資格試験の合格率は100%であった。
- ・ キャリア教育は、前年度に引き続き全学的に実施した。関連して、ビジネスコミュニケーション学科では「ビジネス基礎」を新設し、基礎学力の向上を図るとともに、6月には「学習支援室」を開設して少人数による指導を始め、8月には指導対象学生を全学科に広げた。
- ・ 授業評価に関わっては、引き続き、学生による授業評価アンケートを実施するとともに、教員による相互授業参観を実施し、授業改善への取り組みをした。関連して、5段階評価基準を再考して4段階評価に改め、次年度からの実施に向けて準備した。
- ・ 入学試験に関わる改善点の整理に基づき、入試問題作成ガイドラインおよび入試運営スケジュールを設定し、監査業務を明確化した。

(3) 学生支援体制の充実に向けて

- ・ 学校現場やスポーツ競技団体の体罰問題を踏まえて、「課外指導に関するガイドライン」を作成し、指導上で留意すべきことを明らかにし、関係者への周知を図った。

- ・学生の死亡を契機として、学生相談体制を充実させるために、平日は月曜日から金曜日にかけてカウンセラーを配置した。
- ・スポーツ活動や文化活動の優秀者に加え、学業成績優秀者を選考し、1回生の成績については2回生のオリエンテーションで、2回生の成績については卒業式で、それぞれ学長賞を授与した。
- ・平成26年度からの学内禁煙措置に向けて、禁煙指導を強化した。
- ・就職支援に対する「すみれカレッジ・ジョブカフェ」に就職コーディネーターを配置し、就職相談を継続した。
- ・就職支援講座を1回生後期と2回生前期に開講し、就職活動に直結した内容で設定した。加えて、「就職支援講座」の単位化に向けて検討を開始した。
- ・4年生大学への進学を支援するなかで、「進学ガイダンス」を開催した。

2. 特任教員制度の活用

教育目標の実現に必要な人材を確保するために特任教員制度を活用し、平成25年度においては、専任の特任教授4名、特任准教授1名、特任助教1名、特任助手3名を採用した。また、非常勤の特任准教授2名、特任講師1名を採用した。

3. 美しい日本語コンクールの開催と図書館の充実

美しい日本語コンクールは、学生を対象に平成19年度から継続している。平成25年度においても、3部門（朗読・読み聞かせ・エッセイ）において開催した。また、図書館の充実に向けては引き続き整備を図った。

4. 他大学との包括協定と地域連携による教育研究の推進

滋賀医科大学および滋賀大学との包括協定により、平成25年度も教育事業を相互協力のもとに実施した。また、地域との連携による教育研究をより推進するために、地域連携教育研究センターを窓口とする機能を強化し、地域の教育文化や産業等との連携による教育研究に対して組織的に取り組むために、新たな教育研究支援体制の基盤を整備した。

(1) 滋賀医科大学との連携講座

- ・午前：講演、滋賀医科大学担当、1) 高血圧を防ぐ食事とは、2) 高血圧はなぜ悪いのか
- ・午後：調理実習、滋賀短期大学担当、ダシと香辛料で塩分対策

(2) 滋賀大学との連携講座

- ・教員免許状更新講習：選択講座における幼児教育領域の2講座を担当

5. 公開講座の開催

(1) こどもの講座（第7回）

- ・4講座 延べ開講日数9日（8/5～8/26） 受講者総数 55名

(2) ステップアップ講座（第10回）

- ・6講座 延べ開講日数28日（8/5～11/12） 受講者総数 61名

(3) 教養講座（第27回）

- ・2講座2日間（10/15、10/18） 受講者総数 23名

6. 研究紀要および地域連携年報の刊行

(1) 研究紀要第39号

- ・学術論文9編、研究ノート2編、延べ投稿者数23名、印刷部数400部
- (2) 地域連携年報創刊号
- ・地域連携開発研究2編、地域との教育研究活動3編、地域に向けた公開講座、大学及び自治体等との連携事業、高大連携事業、印刷部数400部

7. カリキュラムの変更等

(1) 生活学科

- ・専門科目における新設科目 1科目 1単位
- ・専門科目における名称変更 1科目 1単位

(2) 幼児教育学科

- ・専門科目における新設科目 1科目 1単位

(3) ビジネスコミュニケーション学科

- ・専門科目における新設科目 17科目 29単位
- ・専門科目における廃止科目 12科目 21単位
- ・専門科目における名称変更 1科目 1単位

8. 施設・設備の整備状況

- ・子育て支援教育プレイルームの設置※
(211教室の大改装)
 - ・課題解決型学習ルーム(PBLルーム)設置※
(スカイロビーの仕様変更)
 - ・地域連携教育研究センターの設置※
(第2会議室の仕様変更)
 - ・空調設備等改修工事
 - ・視聴覚機器の整備※
 - ・教育用機器・図書等の整備等
- ※補助金採択事業であり補助金含む
- | | |
|---|-----------------|
| } | 34,445千円 |
| | 内訳：工事費 24,995千円 |
| | 備品 9,450千円 |
| | 9,740千円 |
| | 9,100千円 |
| | 7,740千円 |

9. 学生募集の状況

(1) 平成26年度入学試験状況

- ・志願者数 324名(前年度：429名)
- ・合格者数 307名(前年度：380名)
- ・入学者数 285名《内男子40名》(前年度358名《内男子62名》)

(2) 夏のオープンキャンパス開催状況

- ・開催日 6/30(日)、7/20(土)、7/28(日)、8/18(日)、9/16(祝)
- ・参加者 延べ640名(前年度：890名)

(3) 秋のオープンキャンパス開催状況

- ・開催日 11/3(日) ※学園祭時に開催
- ・参加者 21名(前年度：36名)

(4) 春のオープンキャンパス開催状況

- ・開催日 3/26(水)
- ・申込者 159人(前年度はオープンクラス：123人)

・参加者 157人(同上) : 113人)

10. 卒業生の免許・資格等の取得状況(平成26年3月15日現在)

卒業生 278名

(生活学科67名 幼児教育保育学科126名 ビジネスコミュニケーション学科85名)

(1) 生活学科

・中学校教諭2種	4名	・フードスペシャリスト	2名
・栄養士免許	22名	・製菓衛生師受験資格	30名
・栄養教諭2種	8名		

(2) 幼児教育保育学科

・幼稚園教諭2種	107名	・児童厚生2級指導者資格認定書	11名
・保育士資格	97名		

(3) ビジネスコミュニケーション学科

・上級秘書士認定証	6名	・上級情報処理士認定証	11名
・秘書士認定証	66名	・情報処理士認定証	51名
・ウェブデザイン実務士認定証	13名	・秘書士(メディカル秘書)	43名
・レクリエーション・インストラクター認定証	4名	・日本医師会医療秘書合格	17名

11. 就職状況(平成26年5月1日現在)

- ・総求人数 880件(前年度:864件)
- ・就職率 97.1%(前年度:98.6%)
- ・幼児教育保育学科就職者の幼、保、施設への就職率 79.4%(前年度:83.3%)

12. 学生援護活動状況

学生相談 延べ相談件数 118名(前年度:201名)

13. 課外活動の実施状況

(1) 学生団体の結成(平成25年10月1日現在)

- ・団体結成数 26団体
- ・クラブ・サークル加入者数 296名 加入率 45.6%

(2) 主な成績

- ・第48回全国私立短期大学体育大会(8/5~8/8)
 - ソフトテニス女子 団体:優勝 個人:1位・3位
 - バドミントン女子 団体:準優勝 個人:ダブルス優勝
 - バスケットボール女子 第3位
 - バレーボール女子 2回戦
- ・ソフトテニス女子
 - 関西学生春季リーグ戦(2部) 第5位
 - 関西学生秋季リーグ戦(2部) 第6位(2部残留)
- ・バスケットボール部女子
 - 関西学生秋季リーグ戦(2部) 第11位(2部残留)
- ・バレーボール部女子

- 関西大学春季リーグ戦 (3部) 第6位
関西大学秋季リーグ戦 (3部) 第5位
- ・バドミントン部女子
 - 関西学生春季リーグ戦 (2部) 第5位 (2部残留)
 - 関西学生秋季リーグ戦 (2部) 第6位 (2部残留)
 - ・2013KDKファッショングランプリコンテスト
 - 京都織物卸商業組合賞 生活学科2回生
 - ・いざメシ大集合 in 滋賀
 - アイデア賞 Kitchen & Kitchen (サークル)

<高等学校>

1. 学習(体験)活動

ア 福祉体験

1年生が、3日間高齢者福祉施設および保育所・幼稚園にて保育・介護体験学習

1年生人間総合科が附属幼稚園で保育体験学習

イ 伝統文化体験

生徒製作浴衣の着付け体験学習、和装の着装の講義と実践。茶道における「客の心得」の体験学習

ウ 国際理解教育体験活動

龍谷大学「龍谷アンバサダー」の留学生とⅡ類生徒との交流

ミシガン州立大学連合日本センター留学生2名をインターンシップで受け入れ、英語の授業、フレッシュ講座、生徒との交流会などに参加してもらい交流を図った。

エ フレッシュ講座

教師が得意とする分野や外部講師を招いて、講座(32講座)を開講し、生徒はそこから挑戦したい講座を選び1年間学ぶ。剣舞、和風ちぎり絵、郷土研究、ボランティア活動、スポーツ、文学語学に関わる学習、検定挑戦、ものづくりなど日常の教科学習では学べない幅広い分野で実施している。

オ スポーツフェスティバル(竜王町ドラゴンハット)

「学級集団の団結力を高めること、良好な人間関係づくり」を目的として、大縄跳びやリレーなどの団体競技を行う。

カ 宿泊体験・校外体験学習

- ・4月上旬(年度当初)に1年生は、教師と生徒、生徒相互の人的なふれあいを体験し、集団生活への適応を図ることを目的として、若狭湾青少年自然の家にて2泊3日の宿泊研修を実施。その期間に2年生・3年生は学年、類型に応じた集団生活への適応力を養うとともに、専門学科の学習や進路学習への意欲を高めることを目的とした校外学習を実施している。
- ・2年Ⅱ類:ミシガン州立大学連合日本センターでの英語研修。2年人間総合科:滋賀短大での講義、京都府木津市の住宅メーカー研究所で住居に関する研修、竹の子掘り、翌日竹の子を食材とした調理実習。
- ・3年生:大学、短大、専門学校見学。
- ・10月1日～2日 1年人間総合科 食品・衛生・栄養についての講義、食品加工工場の見学と養鱒場での体験
- ・10月21日～22日 1年Ⅱ類生徒比叡山居士林で宿泊研修体験
- ・10月5日 3年生 踏破体験(15Km、16Km、22Km、26Km)

キ 講演(啓発)活動

1年生対象 薬物乱用防止講演 大津警察署 寺元俊子氏

2年生対象 マレーシア観光局 ウィラー氏夫妻による講演「マレーシアの文化・風土と言葉、マナー」

3年生対象 「年金講話」日本年金機構大津年金事務所 竹中氏他3名

「高校生『法』教育講座」滋賀県司法書士会古川・加藤氏他8名が3年生各クラスに入り「契約」についての講座

全学年対象 創立記念行事記念講演「出会いが運を呼ぶ」ジミー大西氏

税の教室「私たちの生活と税金」田中税理士事務所所長 田中敏隆氏、

税理士 結城博史氏

「選挙について」滋賀県選挙管理委員会 羽田野祐樹氏（その後実際の記載台と投票箱を使って生徒会役員選挙）

人権共同映画鑑賞「チルソクの夏」

教育文化講演会 宮本延春氏「オール1の落ちこぼれ、教師になる」

人権講演「インターネット上での人権侵害」滋賀県人権センター 松浦広明氏

ク ウォークラリー

3月に1・2年生全員が男子は瀬田唐橋～近江大橋～なぎさ公園へ、女子は長等公園～三井寺～近江神宮～浜大津港を歩いて巡り、地元大津の歴史・文化・自然に触れる体験をする。

ケ 国際交流

・海外研修

10月上旬に2年生海外研修旅行を実施（マレーシア・シンガポール3泊5日）。

10月下旬海外研修報告会を実施。

・国際交流会

Ⅱ類1年生・3年生対象に龍谷大学の龍谷アンバサダー3名を招聘し、各クラスにて国際交流および国際文化理解活動を実施。

I類、人間総合科1年生・3年生を対象に立命館大学への留学生12名を招聘して各クラスにて交流会を実施。

コ エコフオスター活動

滋賀県が実施する淡海エコフオスター事業に参加し、毎月1回、校外清掃活動を行う。9月18日、台風18号による大津駅周辺河川氾濫堆積土砂除去作業を実施。

サ 防犯ヤングボランティア活動

大津署より委嘱を受け犯罪防止の啓発ビラや防犯グッズの配付を生徒会執行部員と滋賀短大生、滋賀短大附属幼稚園児で実施。

シ その他のボランティア活動

・フレッシュ講座ボランティア選抜者による校外清掃活動、琵琶湖岸にてブラックバス駆除活動

・大津サマースクール 演劇同好会出張公演（7月28日市立障害者福祉センター8名、7月31日坂本市民会館7名）

2. 進路指導

ア ・3年生就職希望者を対象に、キャリアガイダンスを実施。

・2年生対象に、分野別ガイダンスを15会場で実施。

・2年生を対象に、「企業とその仕事を知る」を実施。

・2年生Ⅱ類を対象に、「進路先をリサーチしよう」を実施。

・2年生を対象に大学・短大・専門学校模擬授業を実施。27の大学・短大・専門学校の模擬授業を2講座選択して受講。

・1年全生徒（I類と人総合同、Ⅱ類は単独）を対象に自ら主体的に将来を考えて進路選択ができるようにリクルート進路担当者の講演を聞いた後「じぶん未来BOOK」を作成。その後も進路意識向上講座を実施。

・1年普通科Ⅱ類大学見学会（6月龍谷大、立命館大）

・1・2年普通科Ⅱ類大学見学会（11月大阪大学、同志社大、龍谷大学）

・2・3年普通科Ⅱ類「生徒夢なびライブ（大学発見）」参加

イ 進学特別セミナー（学校内予備校）3年生希望者を対象に実施。30名参加。

ウ 卒業生の進路決定状況

大学	短大	専門・各種	就職	その他	合計
82名	60名	49名	3名	12名	206名

3. 施設・設備の充実

ア 体育用具倉庫の建替え	717千円
イ 面談室の整備号館2階	1,375千円
ウ 食堂のリニューアル	6,090千円
エ 理科実験器具の整備	1,412千円
オ 教務システムの更新	4,318千円

4. 生徒募集関係

◆中学校・塾訪問（滋賀県 96校、京都20校、塾 300校）年各4回

ア 6月から12月にかけて、生徒保護者対象の学校説明会を開催（3回）

イ 生徒保護者対象のオープンスクール開催（8月、10月、11月）

ウ 塾対象の入試説明会2回実施（4月、9月）

エ 滋賀の私立学校展に参加（イオンモール草津 8/31,9/1 彦根ビバシティ 8/25）

オ 中学校主催入試説明会に参加（15回）

カ 塾主催の進学説明会に参加（5校）

キ 中学校教員対象説明会（1回）

入 試 結 果 (男子内数) (単位:人)

区 分	専・併	普通科	人間総合科	合 計
志願者数	専 願	118 (40)	30 (1)	148 (41)
	併 願	962 (378)	168 (7)	1130 (385)
	合 計	1080 (418)	198 (8)	1278 (426)
合格者数	専 願	116 (38)	30 (1)	146 (39)
	併 願	944 (363)	163 (6)	1107 (369)
	合 計	1060 (401)	193 (7)	1253 (408)
入学者数	専 願	116 (38)	30 (1)	146 (39)
	併 願	96 (36)	23 (0)	119 (36)
	合 計	212 (74)	53 (1)	265 (75)

普通科内数 II類 志願者数 434人 (内男子 163人)

入学者数 39人 (内男子 15人)

5. 体育クラブの活動 (主な成績)

●全国高校総合体育大会出場

バドミントン (団体、複1組) 団体2回戦敗退、バスケットボール2回戦敗退

●全国高校選抜大会

バスケットボール

●近畿大会

バスケットボール、バドミントン（単3人、複3組）、バレーボール、ソフトテニス（女）（複2組）、陸上競技（女子やり投げ）

●県内等各種大会結果（主なもの）

・バスケットボール（女）

春季高校総体優勝、秋季高校総体優勝

・バドミントン（女）

春季高校総体（団体優勝、単3位、複1位・3位）、秋季高校総体準優勝

・バレーボール（女）

春季高校総体（準優勝）、秋季高校総体（準優勝）

・ソフトボール（女）

春季高校総体ベスト8、秋季高校総体ベスト8

・陸上競技（男・女）

春季高校総体（女子やり投げ2位）

・ソフトテニス（女） 春季高校総体（複ベスト16に2組）

・硬式野球部

春季大会（2回戦敗退）、選手権大会県予選（1回戦敗退）、秋季大会（3回戦敗退、ベスト16）

・バスケットボール（男）

・ソフトテニス（男）

・剣道（女）

・卓球（男・女）

・体操（女）

・フットサル（男）

あがりゃんせCUP準優勝

県高校総体出場

6. 文化クラブの活動

・吹奏楽

県高文祭参加、滋賀県吹奏楽祭参加、県吹奏楽コンクール銀賞、
県アンサンブルコンテスト銀賞

第4回定期演奏会実施

・書道部 高野山競書大会特選等各賞7名受賞、大津市展入賞

7. その他

・カレー甲子園 決勝進出（テレビ放映）

・全国きものデザインコンクール 金賞1名・入選5名

< 附属幼稚園 >

1 平成26年度の園児募集の状況

- ・入園希望者 71人 (H25 80人・H24 81人・H23 104人)
- ・入園児数 63人 (3歳児60人・4歳児2人・5歳児1人)

2 教育指導状況

- ・建学の精神、文科省教育要領を踏まえて、平成25年度教育課程大綱の作成及び実践。
- ・きめ細やかな保育の実践。全学級担任2人制。
- ・預かり保育の実施
平成25年度実績 述べ 3,271人
(平成24年度実績 述べ 3,119人)

3 教員の資質向上と研修

- ・園内研修を毎月2回程度、水曜日等を実施。
- ・夏季休業中は、各種の研修に積極的に参加。
- ・近畿私立幼稚園夏季研修兵庫大会に参加。
- ・短大教授によるAEDを使用した救急救命講習会の実施。
- ・「こうすればもっと楽しい運動遊び」研修 園庭の芝生化
- ・特別支援教育研修
- ・幼児教育の5領域、「環境」を中心とした学生の気づき、観察等の研究協力

4 滋賀短期大学幼児教育保育学科等の学生等受け入れ状況

- ・2回生の教育実習 前期 6月3日～7日の期間 14人
後期 9月3日～17日の期間 10人
- ・「幼児体育」選択の学生 火曜日、金曜日に40人程度
- ・生活学科の学生による「竹の子ご飯」「秋の実りご飯」の提供による交流
- ・スポーツ教室、創作活動、ワークショップの実施。
- ・短大附属高校保育体験の受け入れ。
- ・中学校職場体験（打出中学、皇子山中学2年生）の受け入れ。
- ・夏祭り（PTA主催）、祖父母交流の園行事に地域や年齢層を広げての参加呼びかけ。

5 施設設備の整備改善

・オーニング取り付け工事	552千円
・アコースティックピアノ	760千円
・3歳児用椅子の新規購入	271千円
・パソコン新規購入	90千円
・緑の広場等環境管理費	630千円

IV 平成25年度 決算概要説明

【学校法人会計と企業会計】

「学校法人会計基準」に定められた計算書には、資金収支計算書と消費収支計算書および貸借対照表の3種類がありますが、この様式は補助金交付の観点からの表示区分となっているため、一般的によく知られている企業会計の損益計算書や貸借対照表とは異なる点も多くあります。

企業会計は、企業の収益と費用を正しくとらえ、その財務状態や経営成績などを知るためのものですが、学校法人会計は学校の教育研究活動が円滑に行われているか、そのために必要な施設・設備や人員などが整備されているか、また必要な資金・財産が正しく管理されているかを知るためのものとなっています。

「資金収支計算書」は当該年度の諸活動に対応するすべての資金の収入・支出の内容および支払資金のてん末を明らかにします。資金収支計算書は企業会計でいうところのキャッシュフロー計算書であるため、収入には借入金収入や前受金収入等が含まれ、支出では借入金返済支出や資産運用支出等が含まれます。

「消費収支計算書」は当該年度の消費収入と消費支出の内容及び均衡状態を明らかにし、学校法人の経営状態が健全であるかどうかを判断することができます。

「貸借対照表」はある時点（決算日）における資産、負債、基本金、消費収支差額の内容及び残高を示し、学校法人としての資産の保有状況と財政状態を明らかにしています。

【各計算書における主な科目について】

○資金収支計算書、消費収支計算書の共通科目

学生生徒等納付金（収入）	学生生徒から納入された授業料・入学金・施設費等の収入です。
手数料（収入）	入学検定料や証明書発行手数料等の収入です。
寄付金（収入）	金銭等の寄付金で、消費収支計算書では現物寄付金を含みます。
補助金（収入）	国や地方公共団体から交付される助成金です。
資産運用収入	奨学基金の運用収入や預貯金の受取利息、施設貸与の収入等です。
事業収入	公開講座の受講料等、教育研究活動に付随する事業の収入です。
人件費（支出）	教職員等に支給する給与や所定福利費等です。
教育研究経費（支出）	教育研究のために支出する経費です。
管理経費（支出）	総務・人事・経理業務や学生募集活動等、教育研究活動以外の活動に支出する経費です。
借入金等利息（支出）	借入金に係る利息として支出する経費です。

○資金収支計算書のみにみられる主な科目

資産売却収入	帳簿残高のある固定資産等の売却収入です。
前受金収入	翌年度以降の諸活動に対応する収入を当年度中に資金収入したものの、具体的には、翌年度入学生に係る学生生徒納付金収入などです。
資金収入調整勘定	資金の収入が前年度または翌年度に行われる収入項目のことで、具体的には「期末未収入金」や「前期末前受金」等です。
借入金等返済支出	借入金に係る返済のため支出する経費です。
施設関係支出	諸活動に使用する目的で取得する土地・建物・構築物等のため支出する経費です。

設備関係支出	諸活動に使用する目的で取得する教育研究用機器備品・その他の機器備品・図書・車輛・ソフトウェア等のため支出する経費です。
資産運用支出	学校法人の資金運用目的による支出です。
資金支出調整勘定	資金の支出が前年度または翌年度に行われる支出項目のことで、具体的には「期末未払金」や「前期未前払金」等です。

○消費収支計算書のみみられる主な科目

資産売却差額	資産売却収入が帳簿残高を超えた場合、その超過額をいいます。
帰属収入	学校法人のすべての収入のうち、負債の増加とならない収入です。借入金や前受金、預り金は負債性があることから除かれます。
基本金組入額	学校法人が諸活動の計画に基づき、必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、帰属収入のうちから組入れた金額です。
消費収入	帰属収入の額から基本金への組入額を控除した金額です。
資産処分差額	資産の帳簿残高が資産売却収入を超えた場合、その超過額をいいます。また売却以外で除去損や廃棄損も含まれます。
徴収不能引当金繰入額	前期以前に計上した未収入金で、当期において回収不能と判断した額をいいます。
消費支出	人件費や教育研究経費等、用役の対価に基づく支出額及び、減価償却額等、消費する資産の取得価額に基づく減少額をいいます。

○貸借対照表にみられる主な科目

固定資産	貸借対照表日後1年を超えて使用する資産をいいます。
流動資産	現預金等貸借対照表日後1年以内に使用する資産をいいます。
固定負債	長期借入金等、返済の期限が1年を超えて到来する負債のことで、
流動負債	短期借入金等、返済の期限が1年以内に到来する負債のことで、
基本金	第1号基本金:学校法人が設立当初に取得した教育用の固定資産や新たな学校の設置・規模の拡大・教育の充実向上のために取得した固定資産の額をいいます。 第2号基本金:将来取得する固定資産に充てる金銭その他の資産の額をいいます。 第3号基本金:基金として継続的に保持し、かつ運用することでその果実を教育研究に使用する金銭その他の資産をいいます。 第4号基本金:恒常的に保持すべき資金の額をいいます。
消費収支差額	当年度以前の各年度の消費収入から消費支出を差し引いた差額の累計額です。消費収支計算書において消費収入が消費支出より多い場合は「当年度消費収入超過額」と表示し、その逆の場合を「当年度消費支出超過額」と表示します。

【資金収支決算】

資金収入及び資金支出の合計は、それぞれ2,408,851千円で、予算（補正予算）より、64,632千円減少した。

予算との差異が大きかった科目の主因は次のとおりである。

資金収入の部において、学生生徒等納付金収入3,045千円の減は、退学者及び休学者等によるものである。手数料収入1,689千円の減は、平成26年度入試における短期大学志願者数の見込み減等によるものである。補助金収入3,501千円の増は、短期大学における経常費補助金の特別補助（改革総合支援事業）の増が主因である。資産運用収入は3,246千円の増で、特定資産として保持している債券等の運用益等による受取利息収入の増加によるものである。雑収入7,419千円の増は、年度末退職者の増加による退職金財団からの交付金の増によるものである。前受金収入25,203千円の減は、短期大学における入学予定者数の減によるものである。資金収入調整勘定（期末未収入金）の増は、退職者の退職金財団から交付金の未収や短期大学における国庫補助金の未収及び高等学校及び幼稚園における滋賀県振興補助金のうち特色教育加算補助金の未収等である。

資金支出の部において、人件費支出6,651千円の増は年度末退職者の退職金支出によるものである。教育研究経費支出34,302千円の減、管理経費支出7,657千円の減は、計画予算の縮小や経費節減によるもの他、教育研究経費支出の小科目、消耗品費支出10,212千円の減、奨学費支出3,914千円の減、保全改修費支出8,986千円の減、業務委託費支出2,962千円の減等によるものである。管理経費支出の小科目、旅費交通費支出1,000千円の減、賃借料支出1,773千円の減等予算計上の差異によるものである。施設関係支出2,840千円の増は、短期大学における子育て支援センター設置に係る経費配分の変更等による増が主因である。設備関係支出3,923千円の増は、子育て支援センター設置に係る追加工事（トイレの設置など）等によるためである。資金支出調整勘定（期末未払金）4,088千円の増は、経費の支払、退職金財団掛金等である。

よって、次年度繰越支払資金は、予算額より36,057千円減の542,235千円となった。

【消費収支決算】

帰属収入合計は、1,769,065千円となり、予算より350千円減額となった。

減少した科目は、学生生徒等納付金3,045千円、手数料1,689千円、雑収入4,985千円である。一方増加した主な科目は、補助金3,501千円、資産運用収入3,246千円等である。

基本金組入額の合計は79,853千円で、その内訳は、施設設備関係30,581千円、研修補助基金への積増31千円、短大教育研究充実基金への積増2,561千円、借入金返済による組入46,680千円であり、前年度より28,567千円の組入増となった。帰属収入に対する組入額の比率は4.5%で、前年度の同比率2.9%より1.6%増となった。予算との比較では21,012千円の組入減となった。主な原因は、教育研究用機器備品の除却等による組入額の減少等によるものである。

以上の結果、帰属収入合計から基本金組入額合計を控除した消費収入の部合計は1,689,212千円となり、予算より20,662千円増加した。

消費支出の部合計は1,728,093千円となり、予算より30,590千円減少した。

減少した主な科目と減少額は、教育研究経費34,308千円、管理経費7,651千円等である。

一方増加した科目は、人件費13,756千円、である。

以上により、**消費収支差額**は、予算額 90,133 千円の支出超過額から 51,252 千円改善して 38,881 千円の支出超過となった。

第2号基本金として保持している短期大学施設設備計画組入による引当特定資産 24,181 千円については、短期大学の子育て支援プレールームの改修施設費に 13,195 千円を充当することにより計画を終了する。残額については支払資金に振替えることによる基本金の取崩額 10,985 千円となる。

よって、**累積支出超過額**は、**前年度繰越消費支出超過額** 1,965,085 千円の**当年支出超過** 38,881 千円の合計額から、**基本金取崩額** 10,985 千円を減じた 1,992,981 千円を翌年度へ繰越すこととなった。

◆◆◆ 主要財務比率の経年比較表 ◆◆◆

比 率	算式 (×100)	平成21年度 (決 算)	平成22年度 (決 算)	平成23年度 (決 算)	平成24年度 (決 算)	平成25年度 (決 算)
人件費比率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	67.1%	63.7%	68.0%	66.2%	69.2%
人件費依存率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}$	95.3%	97.0%	102.3%	99.2%	107.6%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教 育 研 究 経 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	22.3%	22.9%	20.6%	21.9%	22.8%
管理経費比率	$\frac{\text{管 理 経 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	5.7%	5.1%	5.1%	5.0%	5.4%
帰属収支比率	$\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{帰 属 収 入}}$	95.5%	92.3%	94.2%	93.4%	97.7%

【貸借対照表】

資産の部合計は 5,040,998 千円で、前年度末より 11,444 千円 (0.2%) 増加した。

その主な要因は「有形固定資産」の建物等の減価償却による減少と「その他の固定資産」における引当特定資産の増加 (減価償却引当特定資産の積増 110,000 千円) 及び「流動資産」現金預金及び有価証券の減少と未収入金の増加 (退職金財団交付金の増加) 等の増減結果によるものである。

その内訳は、**固定資産**は、前年度末より 82,436 千円の増加 (有形固定資産 41,743 千円の減、その他の固定資産 124,179 千円の増) **流動資産**では、前年度末より 70,992 千円減少となった。

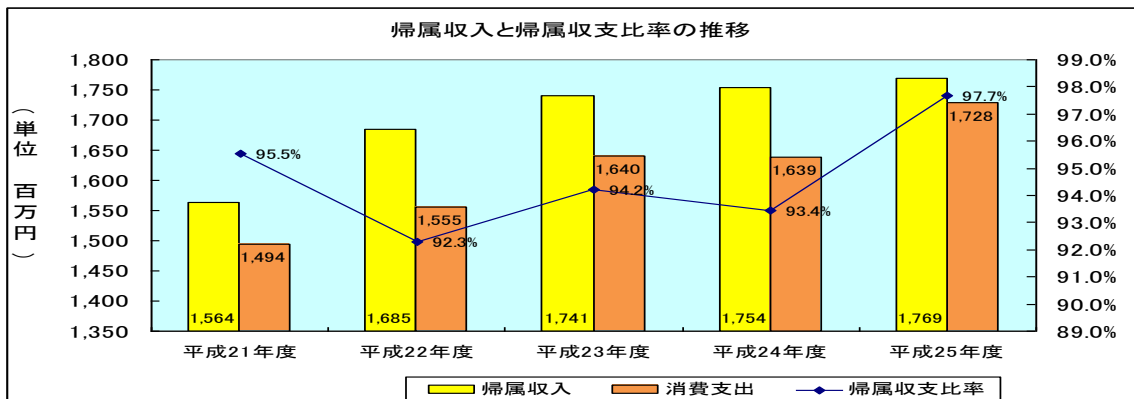
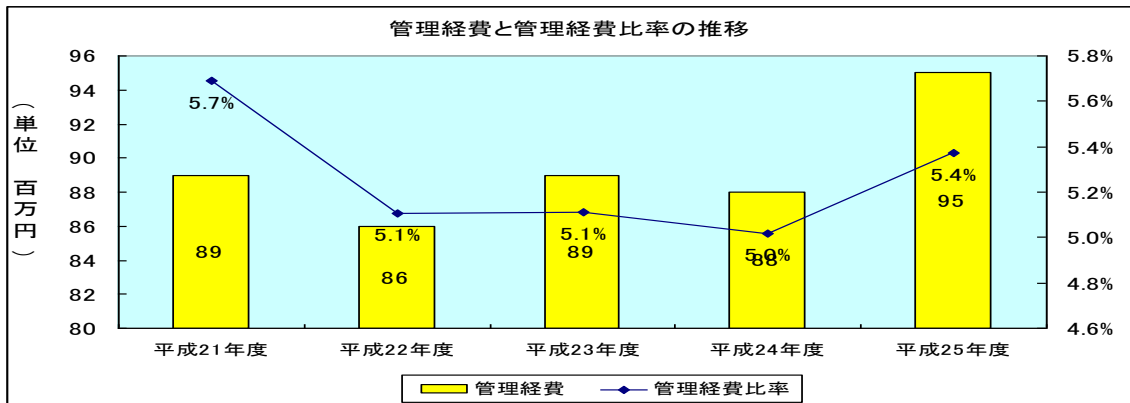
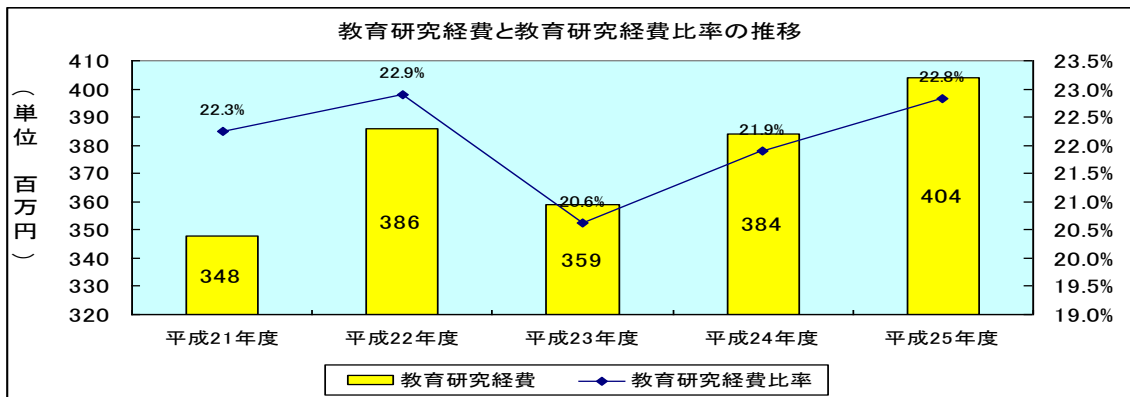
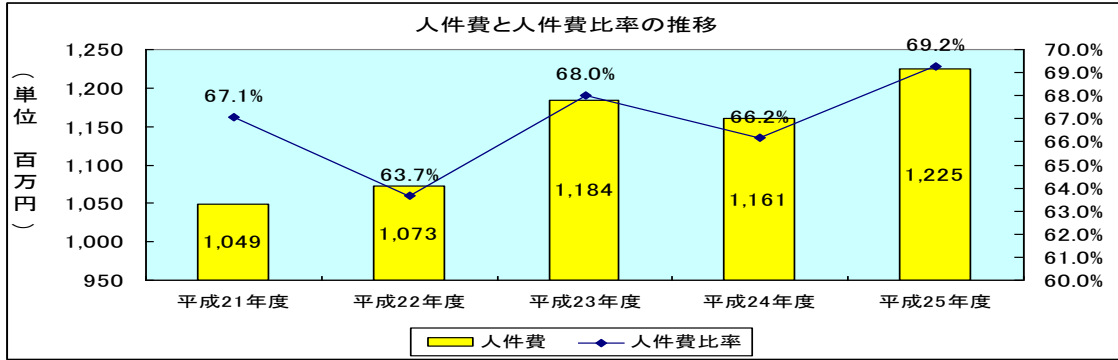
負債の部合計は 728,059 千円で、前年度末より 29,528 千円減少した。

その主な要因は長期借入金の計画的返済による減少、学生生徒等納金の前受金の減少と退職給与引当金等の増加との相殺によるものである。

基本金は 68,868 千円組入をした結果、6,305,920 千円となった。

<参考>

比 率	算式 (×100)	平成21年度 (決 算)	平成22年度 (決 算)	平成23年度 (決 算)	平成24年度 (決 算)	平成25年度 (決 算)
流動比率	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}}$	123.4%	132.7%	157.2%	203.0%	215.9%



第1表

資 金 収 支 計 算 書

平成25年4月 1日から

平成26年3月31日まで

<総括表>

収入の部

(単位 千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	1,141,315	1,138,270	3,045
手数料収入	38,544	36,855	1,689
寄付金収入	8,335	8,305	30
補助金収入	436,522	440,023	△ 3,501
国庫補助金収入	147,005	150,631	△ 3,626
地方公共団体補助金収入	289,517	289,392	125
資産運用収入	32,436	35,682	△ 3,246
資産売却収入	50,000	51,500	△ 1,500
事業収入	5,481	5,731	△ 250
雑収入	92,418	99,837	△ 7,419
前受金収入	257,250	232,047	25,203
その他の収入	174,200	179,890	△ 5,690
資金収入調整勘定	△ 350,781	△ 407,052	56,271
前年度繰越支払資金	587,763	587,763	0
収入の部合計	2,473,483	2,408,851	64,632

支出の部

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	1,157,309	1,163,960	△ 6,651
教育研究経費支出	318,034	283,732	34,302
管理経費支出	99,657	92,000	7,657
借入金等利息支出	3,778	3,777	1
借入金等返済支出	46,680	46,680	0
施設関係支出	20,799	23,639	△ 2,840
設備関係支出	52,501	56,424	△ 3,923
資産運用支出	166,440	172,502	△ 6,062
その他の支出	46,536	47,943	△ 1,407
〔予 備 費〕	3,410		3,410
資金支出調整勘定	△ 19,953	△ 24,041	4,088
次年度繰越支払資金	578,292	542,235	36,057
支出の部合計	2,473,483	2,408,851	64,632

注：予備費7,500千円の内4,590千円を使用した。

第2表

資金収支内訳表

平成25年4月 1日から
平成26年3月31日まで

収入の部

<総括表>

(単位 千円)

科目	部門	滋賀短期大学	滋賀短期大学 附属高等学校	滋賀短期大学 附属幼稚園
学生生徒等納付金収入		723,826	372,843	41,601
手数料収入		10,863	25,773	219
寄付金収入		3,586	4,598	120
補助金収入		150,044	246,296	43,683
国庫補助金収入		149,926	705	0
地方公共団体補助金収入		118	245,591	43,683
資産運用収入		13,684	9,933	1,159
資産売却収入		26,265	21,630	3,605
事業収入		421	0	5,311
雑収入		1,724	71,166	26,868
計		930,413	752,239	122,566

支出の部

(単位 千円)

科目	部門	滋賀短期大学	滋賀短期大学 附属高等学校	滋賀短期大学 附属幼稚園
人件費支出		508,696	513,759	110,590
教育研究経費支出		156,957	107,516	19,259
管理経費支出		54,521	30,660	1,231
借入金等利息支出		219	3,557	0
借入金等返済支出		11,110	35,570	0
施設関係支出		22,371	716	552
設備関係支出		37,426	17,793	1,205
計		791,300	709,571	132,837

第3表

消 費 収 支 計 算 書

平成25年4月 1日から
平成26年3月31日まで

<総括表>

消 費 収 入 の 部

(単位 千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	1,141,315	1,138,270	3,045
手数料	38,544	36,855	1,689
寄付金	9,295	10,167	△ 872
補助金	436,522	440,023	△ 3,501
国庫補助金	147,005	150,631	△ 3,626
地方公共団体補助金	289,517	289,392	125
資産運用収入	32,436	35,682	△ 3,246
資産売却差額	0	1,500	△ 1,500
事業収入	5,481	5,731	△ 250
雑収入	105,822	100,837	4,985
帰属収入合計	1,769,415	1,769,065	350
基本金組入額合計	△ 100,865	△ 79,853	△ 21,012
消費収入の部合計	1,668,550	1,689,212	△ 20,662

消 費 支 出 の 部

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	1,211,086	1,224,842	△ 13,756
教育研究経費	437,927	403,619	34,308
管理経費	102,482	94,831	7,651
借入金等利息	3,778	3,777	1
資産処分差額	0	1,024	△ 1,024
[予 備 費]	3,410		3,410
消費支出の部合計	1,758,683	1,728,093	30,590
当年度消費支出超過額	90,133	38,881	
前年度繰越消費支出超過額	1,965,085	1,965,085	
基本金取崩額	—	10,985	
翌年度繰越消費支出超過額	2,055,218	1,992,981	

注：予備費8,000千円の内4,590千円を使用した。

第4表

消費収支内訳表

平成25年4月1日から
平成26年3月31日まで

消費収入の部

(単位 千円)

科目	部門	滋賀短期大学	滋賀短期大学 附属高等学校	滋賀短期大学 附属幼稚園
学生生徒等納付金		723,826	372,843	41,601
手数料		10,863	25,773	219
寄付金		4,647	4,640	880
補助金		150,044	246,296	43,683
国庫補助金		149,926	705	0
地方公共団体補助金		118	245,591	43,683
資産運用収入		13,684	9,933	1,159
資産売却差額		765	630	105
事業収入		421	0	5,311
雑収入		1,724	71,166	26,868
帰属収入合計		905,974	731,281	119,826
基本金組入額合計		△ 26,757	△ 50,718	△ 1,562
消費収入の部合計		879,217	680,563	118,264

消費支出の部

(単位 千円)

科目	部門	滋賀短期大学	滋賀短期大学 附属高等学校	滋賀短期大学 附属幼稚園
人件費		531,284	548,101	109,202
教育研究経費		221,160	156,284	26,176
管理経費		56,140	31,056	1,231
借入金利息		219	3,557	0
資産処分差額		449	575	0
消費支出の部合計		809,252	739,573	136,609

第5表

貸借対照表

平成26年3月31日

(単位 千円)

科目		年度等	平成25年度末	平成24年度末	増	減
資 産 の 部	固定資産		[4,364,990]	[4,282,554]	[82,436]	
	有形固定資産		(2,997,188)	(3,038,931)	(△ 41,743)	
	土地		333,352	333,352	0	
	建物		2,110,178	2,168,110	△ 57,932	
	構築物		60,835	61,322	△ 487	
	機器備品		215,608	203,198	12,410	
	図書		271,720	268,914	2,806	
	車輛		5,495	4,035	1,460	
	その他の固定資産		(1,367,802)	(1,243,623)	(124,179)	
	引当特定資産		1,367,056	1,242,877	124,179	
	電話加入権他		746	746	0	
	流動資産		[676,008]	[747,000]	[△ 70,992]	
	現金預金		542,235	587,763	△ 45,528	
	未収入金		130,187	107,275	22,912	
	有価証券		0	50,000	△ 50,000	
	前払金他		3,586	1,962	1,624	
	資産の部合計 (A)		5,040,998	5,029,554	11,444	
負 債 の 部	固定負債		[414,889]	[389,538]	[25,351]	
	長期借入金		169,860	205,390	△ 35,530	
	退職給与引当金		245,029	184,148	60,881	
	流動負債		[313,169]	[368,049]	[△ 54,880]	
	短期借入金		35,530	46,680	△ 11,150	
	未払金		22,300	23,707	△ 1,407	
	前受金		232,047	276,865	△ 44,818	
	預り金		23,292	20,797	2,495	
負債の部合計 (P)		728,058	757,587	△ 29,529		
基本金 (C)		6,305,921	6,237,052	68,869		
消費収支差額 (G)		△ 1,992,981	△ 1,965,085	△ 27,896		
(P) + (C) + (G)		5,040,998	5,029,554	11,444		

第6表

財 産 目 録

平成26年3月31日

I 資産総額	5,040,998 千円
内 基本財産	2,988,375 千円
運用財産	2,052,623 千円
II 負債総額	728,058 千円
III 正味財産	4,312,939 千円

区 分	金 額
資 産 額	
1 基本財産	2,988,375 千円
土地	44,401 m ² 330,033 千円
建物	25,841 m ² 2,110,178 千円
図書	102,741 冊 271,720 千円
教具・校具・備品	19,201 点 215,608 千円
その他	156 点 60,836 千円
2 運用財産	2,052,623 千円
現金預金	542,235 千円
積立金	1,367,056 千円
有価証券	0 千円
その他	143,332 千円
資 産 総 額	5,040,998 千円
負 債 額	
1 固定負債	414,889 千円
長期借入金	169,860 千円
その他	245,029 千円
2 流動負債	313,169 千円
短期借入金	35,530 千円
その他	277,639 千円
負 債 総 額	728,058 千円
正味財産 (資産総額 - 負債総額)	4,312,940 千円

V 監事監査報告書


平成26年5月21日

監査報告書

学校法人純美禮学園
理 事 会 御中
評 議 員 会 御中

学校法人 純美禮学園

監 事 山根重雄 

監 事 馬場 尊 

私たちは、私立学校法第37条第3項及び学校法人純美禮学園寄附行為第14条の規定に基づき、学校法人純美禮学園の平成25年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の学校法人の業務の状況及び財産の状況について監査を行いましたので、以下のとおり報告いたします。

1 監査の方法の概要

理事会に出席し、理事、法人事務局等から業務の執行状況を聴取するとともに関係資料を閲覧し、業務及び財産の状況を監査しました。また、公認会計士山本智三氏並びに香本明彦氏の兩人から監査状況の報告を受けるとともにそれらを参考として計算書類等に検討を加えました。

2 監査の結果

- (1) 学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実は認められません。
- (2) 学校法人の財産に関する不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実は認められません。
- (3) 財産目録、貸借対照表、収支計算書及び事業報告書は、法令及び寄附行為に従い正しく示しているものと認めます。

以 上

<参考資料>

◆「学生・生徒・園児数」<平成26年5月1日現在>

◇滋賀短期大学

学 科 \ 年 次	1	2	計
生 活 学 科	68	77	145
幼児教育保育学科	151	182	333
ビジネスコミュニケーション学科	66	91	157
計	285	350	635

◇滋賀短期大学附属高等学校

学 年 \ 学 科	1	2	3	計
普 通 科	212	181	188	581
人間総合科	53	42	42	137
計	265	223	230	718

◇滋賀短期大学附属幼稚園

\ 園 児 数	3歳児	4歳児	5歳児	計
園 児 数	60	61	63	184